

クインズランド・ボトル・ツリーの導入と展示

磯部実・高井敦雄

導入の経緯と展示状況

平成 26 年春、大温室リニューアルに向けて新規展示植物を調査していたところ、大阪の植物卸売業者により、クインズランド・ボトル・ツリー (*Brachychiton rupestris*) がオーストラリアから新規輸入されていることが判明した。本種は国内の植物園等での展示例は少なく、その特異な形に話題性があるため、1 株を導入することにした (写真 1)。



写真 1 植物輸入業者展示園場のボトル・ツリー

同年 10 月本個体は業者園場からトラックにて本園に移送され (写真 2)、日当たりがよく北風が防げる大温室エントランス前南面右側の柑橘類コンテナ栽培株を展示しているコーナーに並べて展示した (写真 3)。導入時の本個体の樹高は 3.5 m、最大幹直径は 41cm で、縦長の本体のコンテナ (縦横 90cm 高さ 1.2 m) に川砂で植え込まれていた。



写真 2 本園に搬入されたボトル・ツリー



写真 3 大温室エントランス前南側に展示したボトル・ツリー

冬季屋外栽培の挑戦

本種は当初は大温室内で展示する予定であったが、耐寒性があり防寒対策をすれば越冬することが判明し、屋外の同じ場所で継続して展示することとした。11 月より水やりを休止し、12 月からは雨に当たらないように塩化ビニール製波板屋根を被せ、不織布で葉や枝、株元を覆い防寒対策を施した (写真 4)。

同年 4 月には土壤水分をコントロールし、発根を促すため屋根は継続して設置し、防寒用の不織布を撤去した。植え込み用土が乾燥すれば、適宜水やりを行った。夏から秋までは新芽の展開や落葉は無く、地上部は変化なかったが (写

真5)、植え込み用土を掘ると新しい根が伸びているのが見られた。秋期は再び11月から水やりを休止し、12月には前年同時期と同様に枝や株元に不織布による防寒対策を施した。

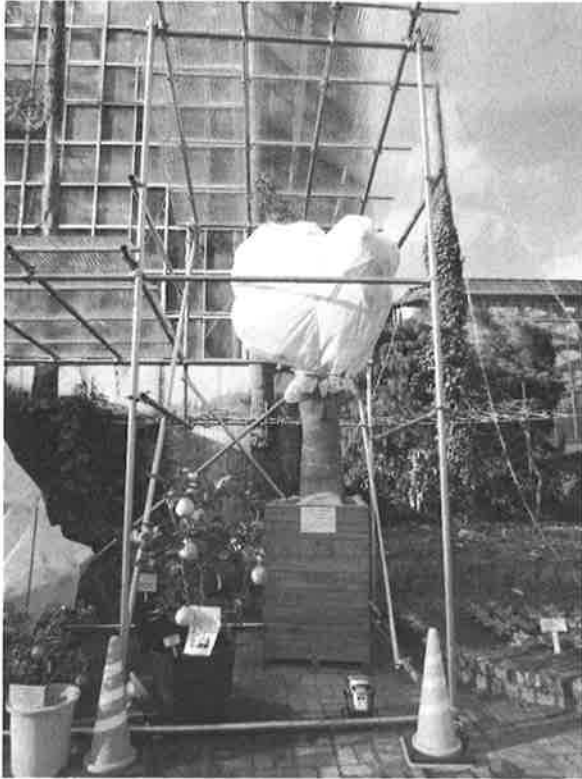


写真4 冬は屋根を設置して防寒対策を施した



写真5 導入展示2年目は成長が見られなかった

展示3年目に成長が開始

平成28年5月大温室大規模改修工事のため展示場所を大温室エントランス南側からスイレン

温室南側へ移動した。防寒用不織布は除き、屋根はせず、雨に当て、植え込み用土の乾燥時は水やりを行った。1か月後の6月に古い葉は落葉し、新芽が展開し、枝や根の伸長が始まった(写真6)。8月には新芽の展開が終了し、9月の夜間開園では一回り成長した姿をライトアップ展示することができ、入園者に好評を博した(写真7)。

同年11月には水やりを休止しこれまで通り塩ビ屋根を設置し、不織布にて防寒対策を施した。

導入3年目にして本園の気候に順応してきたと考えられ、これからもこれまで通り屋外栽培を継続し、幹がとっくり状のユニークな形態を入園者に楽しんでいただきたいと考えている。



写真6 展示3年目の5~6月に落葉と新芽の展開、枝の伸長が見られた



写真7 夏の夜間開園でのライトアップ